

## 精神科治療学編集委員会

(五十音順)

## 編集委員

天野 直二	新井 平伊	加藤 敏	兼本 浩祐
鈴木 國文	仙波 純一	中安 信夫	堀川 直史
本田 秀夫	宮岡 等	(統計担当)三宅 由子	

## 編集顧問

市橋 秀夫	笠原 洋勇	上島 国利	倉知 正佳	栗田 広
小島 卓也	融 道男	中井 久夫	永田 俊彦	樋口 輝彦
皆川 邦直	村上 靖彦	山口 直彦	吉松 和哉	

## 編集後記

編集子は若い精神科医に「リエゾンとはバトルである」とよく言う。極端な表現ではあるが、例えば内科疾患のリエゾン診療では内科医がある程度精神医学の知識をもち、精神科医もその内科疾患を知り、境界部分では両者が診断、治療や担当の分担などについて十分議論しないとよい診療にはつながらないという意味である。内科医が「精神的な問題と思う」と一方的に精神科医に依頼し、それを議論もなく引き受けるのは不適切であろう。総合病院では心身両面に症状を有する患者さんの治療を内科、精神科いずれの病棟で担当するかという問題が生じた時、厳しい議論が展開されやすい。

前号と本号は精神科医療の地域ネットワークに関する特集である。良好な地域連携がネットワーク作りの基盤となるが、思えばリエゾンの日本語訳は連携である。編集子も最近、所属している病院で周辺の医療機関との連携に力を入れる中、ネ

ットワーク作りの難しさを痛感している。自殺対策の一部としてプライマリケア医がうつ病を見出したら精神科クリニック（無床診療所）に、さらに自殺念慮が強ければ病棟のある精神科病院や総合病院に紹介することが当然のように言われる。しかしこの結果、より重症であるが医療収入に大差はない状態の診療を担う総合病院や精神科病院の医師は疲弊する。問題行動があると一方的に病院に紹介し、軽症で安定した医療収入につながる患者さんのみを診ているかのようなクリニックの医師にもよく出会う。身体疾患の地域連携パスなどでは重症例を担当する病院が中心的役割を果たすことが多いが、精神科では軽症例を担当する医師が連携に力を入れているかのような印象もある。

精神科医間の連携に関する議論はきれいごとでは済まされない。もっと厳しいバトルが必要ではないか。本特集が議論の活性化に役立つことを祈る。  
(宮岡 等)

## 精神科治療学

Jpn. J. Psychiatr. Treat.

第23巻 第12号(2008年12月19日発行)

定価：3,024円(本体2,880円)

年間購読料：定価42,483円(税込み、増刊号含む)

発行者—石澤雄司

発行所—星和書店

〒168-0074

東京都杉並区上高井戸1-2-5

PHONE 03-3329-0031(営業部)/0033(編集部)

F A X 03-5374-7186(営業部)/7185(編集部)

U R L <http://www.seiwa-pb.co.jp>